



《どん》で笑顔…そして元気に



《どん》ってご存知ですか。正式には《ポン菓子》というのですが、50才以上の方なら、子供の頃近所で「ドン！」という音が聞こえると米や豆を持って飛び出し、お菓子にしてもらった記憶があるのではないのでしょうか？

亀甲町消防団の前分団長・古川さんは、消防団＝ファイアーマンとして何か喜んでもらえる社会貢献はないかと暗中模索した結果《どん》に行き着いたそうです。

《どん》について色々調べているさなか、東日本大震災が発生。即、機械を発注し市内の保育園等で実演を重ね、岩手、宮城の被災地を訪問しました。被災地への訪問は現在も継続中です。

被災地や市内の小学校、幼稚園、施設等を訪問し、震災発生から約200日、弘前市内では約100ヶ所でパフォーマンスを繰り広げているボランティアグループ『Fireman』は、古川さんはじめ30才代～70才代の有志5人で「《どん》で笑顔になって欲しい」という想いで活動をしているそうです。

今回、弘前市立豊田小学校で、節分の『豆まき集会』^{おこな}に行われた《どん》を取材しました。

豆まき後、機械にお米を入れ圧力が上がった頃「あと30秒！」とFiremanの古川さんが言うと「30、29、28…」と子供たちは元気良くカウントダウンを始めました。児童代表の子がハンマーで叩くと「ドン！！」という大きな音と煙で体育館中盛り上がり、子供たちの楽しそうな笑顔があふれていました。

機械にはオリジナルで機関車型のカバーを取り付けているこだわりよう。出来立てのお菓子にざらめで作ったシロップを手早く絡め、冷めた物を袋詰めしているメンバーの一員西澤さんの手際の良さはまさに職人技。

どん菓子は給食時に皆で食べ、子供たちの笑顔と、《どん》の香ばしい匂いで満ち足りた『豆まき集会』はとても微笑ましいものでした。

「みんなが楽しまねば日本が、元気でねっきゃ。子供さ楽しんでもらいてし、《どん》見れば懐かしがって年寄りも元気になるべ」と言いながらどん菓子を作っている古川さんの生き生きとした笑顔がとても印象的でした。

駅前マルシェのある日は実演販売をして、それが活動資金になるということなので、どうぞ足を運んでみて下さい。あなたもきっと笑顔になれると思います。【 連絡先：古川携帯 090-9422-8221 】



《ヘルメットをかぶって体験》

豊田小学校の
子どもたち



岩手県野田村にクリスマスプレゼントを届けた弘大生の報告

昨年に引き続き市民の皆さんには多くのプレゼントを用意して頂きありがとうございました。

当日は、野田小学校を訪問し、サンタの格好をして子供たちにプレゼントを渡しました。低学年の子供たちは僕らを見るなり「サンタさんだあー！！」と大はしゃぎでした。高学年の子供たちもプレゼントを渡すとニコニコして、自分のプレゼントだけでなく、周りの友達のプレゼントも気にしていました。

全学年にお礼を言われたのですが、各学年とも一体感があるなと感じました。また、「手伝います」と言ってくれた学年もあり、相手のことを思いやり、助け合える子供が多いなと感じました。

最後に、ある学年の担任の先生がこんなことをおっしゃっていました。

「みんなはひとりじゃないよ。弘前の人たちに支えられてここまで来たんだよ。」と。

このことを聞いて、僕らが継続的に野田村で支援していることが、村全体に伝わっており、少しでも心の支えとなっているのかなと感じました。

弘前大学ボランティアセンター学生事務局：出張智仁



残飯が変身！～おいしい野菜づくりに～

地球温暖化防止活動を行っている『もったいないつがるの会』では、段ボールコンポストの実習指導も実施しています。

今回、市内の保育園の5歳児たちが段ボールコンポストで野菜の肥料づくりに挑戦しました。

※段ボールコンポストとは、段ボール箱を利用した生ごみ処理容器のことで、段ボール箱の中に^{どじょう}土壌改良材を入れ微生物の力で生ごみを分解し^{たいひ}堆肥を作るといふものです。

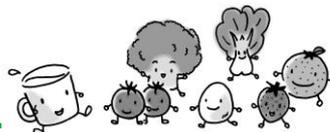
その時の様子を保育士の方に聞いてみました。

『最初「^{たいひ}堆肥ってなあに？」「おいしいの？」「生ごみは臭ーい」と言っていた園児が、炭によって匂いが消えていくと言うと「じゃ怖くないよ」と楽しみながら毎日かき混ぜている。これで、おいしい野菜ができるよと言うと「ふーん」と言って、できた堆肥の土に触っている。

1週間に一度かき混ぜ当番がやってくる。前回自分が入れた生ごみが完全に消えているのを見て「変身してるー、楽しい、毎日やりたーい」と楽しんでいる。

1カ月経過すると、給食を食べる子供達にも変化がみられ、日々の残食量が実習前と比較すると半分程になった。』ということでした。

皆さんも一度試してみませんか？



豆知識

普段はなにげなく使っている言葉にも、ちゃんと生い立ちの歴史があります。

あみだくじ (阿弥陀籤) ^{あみだ}阿弥陀の背後に書かれている^{ごこう}後光のように放射線状に線を書き、そこを隠して金額を書きくじを引いたことから。

ねこばば (猫糞) 猫が自分の^{ふん}糞を土で隠すことから、悪事を隠すことを意味する。

おやつ (お八つ) 昔の時間の数え方で八つめ(午後3時)頃食べたことから。

めんたいこ (明太子) スケトウダラの卵巣を塩漬けにしたもの。明太は朝鮮語(ロシア語・中国語説も)でスケトウダラの意味。

言葉の意味を調べてみるとオモシロイですね。



現在、市内小中学校はじめ、様々な場所に置かせて頂いている《ふくろう通心》。スタッフが全て配布するのは困難で一部は郵送に頼っています。

コーラスが趣味のダンディな蔦谷さんは「微力ですが」と配達の手伝いを率先して引き受けてくれ、大変助かっております。

《ふくろう通心》はたくさんの方々にはささえられており、スタッフ一同感謝の気持ちで一杯です。(スタッフY)



<製作>市民ボランティアスタッフ<製作協力>弘前市ボランティア支援センター
〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13 弘前市民参画センター2階
TEL:38-5595 FAX:36-1822
HP:<http://www.hi-it/vsc>

情報紙についての意見・感想をお待ちしております。